

H23. 6. 20 現在

業務内容	医師	看護副部長 看護師	看護係長 看護師	薬剤師	事務員	臨床 心理士	床 心理士	延派遣 期間
DMAT	1名	1名	1名		1名			2日間
救護班	8名	6名	10名		12名			38日間
こころの ケア要員		1名	4名			1名 (2回)		46日間
看護 ケア班		1名	1名					8日間
石巻赤十字 病院業務 支援	2名	2名	9名	1名				56日間
対策 本部要員					2名			16日間

おられます。

その職種・人員・延派遣期間は、次のとおりです。

当院においては、発災当初に航空自衛隊千歳基地にDMAT（災害医療）チームを派遣、その後、岩手県旧釜石第一中学校及び陸前高田第一中学校へ救護班とこころのケア要員を派遣、6月に入り看護ケア班を派遣しております。更に、石巻赤十字病院の業務支援として医師・看護師・助産師及び薬剤師を派遣しております。又、岩手県の日赤対策本部へ北海道支部管理要員として事務職員を派遣しております。

平成23年3月11日（金）午後2時46分に発生した、未曾有の東日本大震災から3ヶ月が経過しましたが、被災地の復旧・復興には、未だ、かなりの時間を要すると思われ

東日本大震災における当院の取り組み



今回は貴重な経験をさせていた
だき有難うございました。
今までは、訓練参加や救護に行
った人の話を聞くだけであったが
実際に体験して身につまされる思
いがしました。地震発生から3ヶ
月目の11日には校内放送があり、
大震災で亡くなられた方々への黙
祷が捧げられました。陸前高田で
は3ヶ月経った今でも海岸付近は
瓦礫が山積みとなっており、津波
の怖さを改めて感じました。
第一中学校は高台にあるため、
難を逃れたと思われませんが、中腹
には津波が来た痕跡が残っており
裏山は一部崖崩れとなっておりま
した。中学校に滞在中も余震が2回
起きびっくりしましたが、地域の
人は慣れっこになったと話されて

北海道支部第30班救護班 (6月9日～6月14日)に参加して

学校内での行動範囲も避難者の
方の気持ちを考慮して制限されて
おり、体育館・2階の教室へは行
くことが出来ず、救護所での活動
に終始しましたが、当院のほか色
々な機関・地域から応援に来てお
り被害の甚大さを痛感しました。
被災地の一日も早い復旧・復興
と日本赤十字社のコーポレートス
ローガンである「人間を救うのは、
人間だ。」のとおり、一人でも多く
の被災された方々の心身が癒され
救えればと考えます。
この様な大災害が二度と起こら
ないことを願い、この、経験を今
後の業務に生かしていきたいと思
います。
事業課長 南 和敏



登録医紹介

■岩元院長先生質問コーナー

趣味は何ですか？

—— 自転車

特技は何ですか？

—— 特にございません。

座右の銘は何ですか？

—— 「吾唯足知」

これだけは譲れない「こだわり」ってありますか？

—— 「プロ意識」



最後に自院紹介・ピールールをお願いします。

北見赤十字病院の先生方ならびにスタッフの皆様方には日頃より大変お世話になっております。私は卒後札幌医科大学第2内科に入局し、主に循環器疾患を中心に内科診療を行ってまいりました。北海道立北見病院に循環器内科医として9年間勤務した後、2005年4月より寿町で開業し丸6年が経過しました。当院の柱の一つとして、循環器疾患とその原因となる生活習慣病を中心に、二次予防のみならず一次予防を念頭に置いた診療をしています。もう一つの柱として、慢性腎不全の患者さんに対して透析治療を行っています。透析患者の死因第1位は心疾患であり、循環器疾患を特に念頭に置いた診療を心がけています。通院患者の特徴としては、高齢者・重症者の割合が高いように思います。

《医療連携について》

開業する前、紹介される側だけでなく、紹介する側にも勤務医として勤務した経験があるのですが、当時からお互いの立場を理解しようとする事は大切なことと考えていました。医療連携といっても、現在貴院には患者さんを紹介することが多いのですが、必要な診療情報・状況をできる限り理解してもらえようという情報提供を心がけています。当院から貴院へ紹介例数は多い方と伺っています。今後ともより良い信頼関係を築いていければと思います。

いわもと循環器クリニック



〒090-0065

北見市寿町3丁目3-10

TEL (0157) 26-1030

院長：岩元利裕

出身大学名：札幌医科大学医学部

(1986年卒)

出身地：北見市

所属学会：日本循環器学会認定循環器

資格

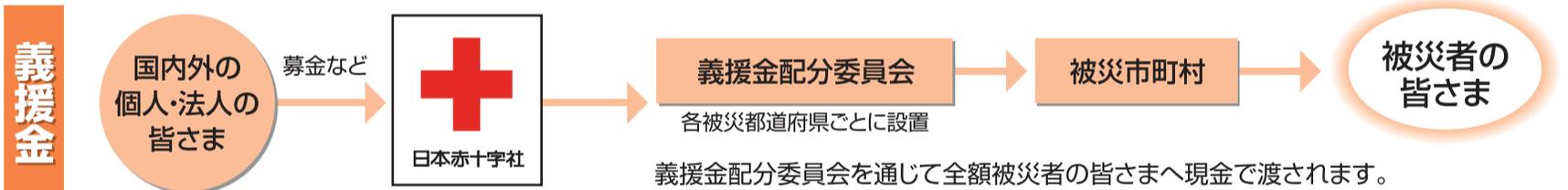
専門医・日本内科学会・日本

透析医学会

〈診療のご案内〉

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前9:00~12:15	○	○	○	○	○	○	×
午後2:00~5:15	○	○	○	×	○	×	×

義援金や救援金の流れ

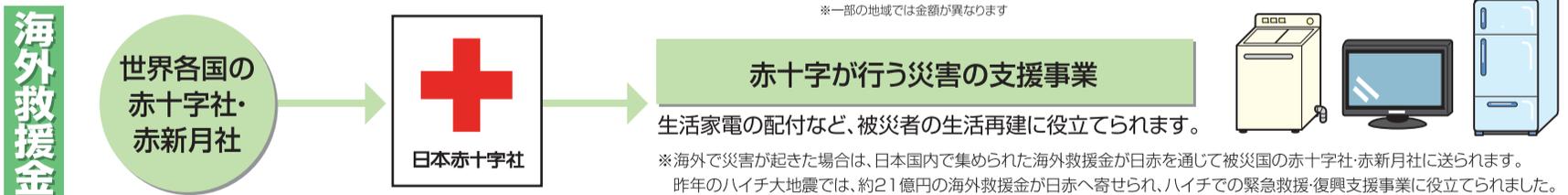


Q 義援金は日赤だけで受け付けているのですか？

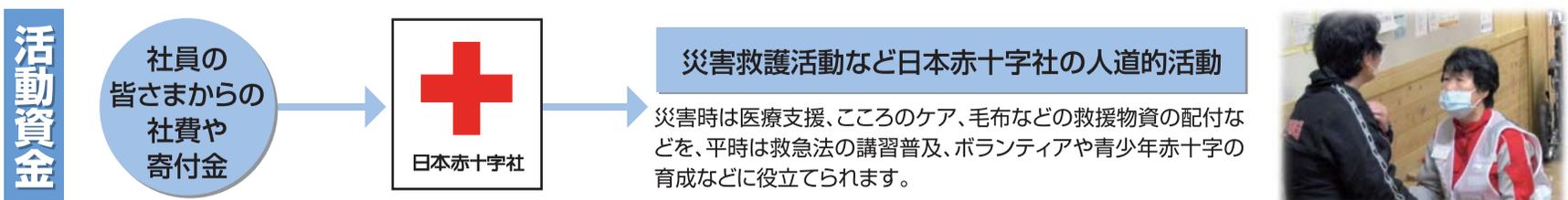
A 義援金受付団体としては、日赤のほか中央共同募金会、NHK及びNHK厚生事業団があります。いずれの団体が受け付けた義援金も、最終的には義援金配分委員会を通じて、被災者へ届けられます。また、政府や各被災自治体も義援金を受け付けています。

Q 日赤に寄せられた義援金が他の用途に使われることはありませんか？

A ありません。被災都道府県の義援金配分委員会を通じて、全額が被災者の方々へ届けられます。一方、日赤が行う被災地への救護班の派遣や、毛布などの救援物資は、赤十字活動に賛同する方々(会員)から年間一口500円以上(※)の会費(社費)や寄付金などですべてまかなわれており、義援金は1円も使われません。
※一部の地域では金額が異なります



活動資金の流れ



救命救急

センター長より

副院長
鈴木 望



本年4月より北見市夜間急病センターが北見市保健センターの1階に移管されてから、2ヶ月が過ぎようとしております。

その間、これまで同様に当院へいらっしゃる方やお電話で受診の相談をされる方も、徐々にではありますが減少してきているように感じられます。

しかし、まだまだご理解やご協力をいただけない部分もありますので、北見市と連携しながら、このシステムの周知と北見市夜間急病センターの運営改善に努め、市民の皆様が安心して医療を受けられるような体制作りが急務です。

また、これまで行われていた日曜当番病院を、祝祭日にも拡大して実施されたことにより、地域の医療機関全体でそれぞれの役割を担うことになりました。

当院の救命救急センターでは、より一層重症(傷)患者への治療を厚く行うために、まずは、北見市及びオホーツク圏の地域医療のあり方を患者様はもちろん連携する医療機関と協力しながら、しっかりと理解していくことが重要であると考えております。

まだ始まったばかりの新しい北見市夜間急病センターですが、これまでの事例等を検証し連携医療機関と協力しながら、皆さんが安心して地域医療のシステム作りとその向上に励んで参りたいと考えております。

第一泌尿器科部長

藤井 敬三

泌尿器科外来紹介



泌尿器科外来は現在常勤の泌尿器科専門医3人が診療にあたっています。一日の平均診療患者数は70名です。初診の方は紹介状の有無に関わらず診療をいたします。

もつとも力をいれて診療しているのは尿路性器の悪性疾患で、診断確定後、各疾患の取扱い規約や診療ガイドラインに従って標準的な治療を心がけています。以下、当科の現状を紹介させていただきます。

1、前立腺癌

毎年40名以上の方が新たに前立腺癌と診断されます。PSA検査の普及により早期癌病期Bの診断件数が急増し、逆に進行癌病期D2の診断件数は減少しています。早期癌と診断された症例はPSA値や病理診断からさらにリスク分類します。低リスク群は前立腺全摘術や放射線療法を単独で行うほか、条件をみれば無治療で経過観察することもあります。

高リスク群では放射線療法と内分泌療法を併用することで長期成績の改善に努めています。内分泌療法後の再燃例、ホルモン抵抗性前立腺癌については、これまで良い治療法がありませんでした。ステロイドホルモンを投与しながらドセタキセルを繰り返し投与することで、QOLを維持しつつ延命することが可能になりました。

2、膀胱癌

当科では毎年50件以上の膀胱癌の内視鏡手術を行っています。再発症例の手術例がもつとも多く(40〜55%)初発例は年間20例前後です。腫瘍の再発予防目的で手術直後にマイトマイシンCを膀胱内に注入し、外来では抗癌剤やBCGの膀胱内注入療法も行っています。

転移再発症例は化学療法への適応になりませんが、従来のMVAC療法は重篤な副作用のため治療可能な症例が限定されてきました。副作用が少なくMVAC療法とほぼ同等の治療効果が得られるゲムシタビン、シスプラチン(GC)療法の導入で多くの患者さんに化学療法ができるようになりました。

大半は画像診断で偶然発見されて精密目的に当科を受診されます。治療の原則は手術治療で病腎の摘出術を行います。腫瘍径が4cm以下の場合にはできるだけ腎部分切除術を行うようにしています。早期発見以外に、すでに転移のある進行癌症例も少なくありません。再発・転移症例には、従来インターフェロンを中心とした免疫療法を行ってきました。現在分子標的薬を用いた化学療法も可能になり、外来診療で処方、副作用のチェック、休薬の可否や治療効果の判定を行っています。

3、腎細胞癌

超高齢化社会に入り、排尿障害、尿路結石、尿路感染症などを重複して敗血症、急性腎不全、尿路大量出血の状態で当科を受診される症例が増えています。低侵襲かつQOLを損なわない治療を選択して早期退院に努めています。

4、高齢者の尿路疾患

旭川医大腎泌尿器外科の柿崎教授が定期出張診察にあたっています。尿道下裂、背髄髄膜瘤、先天性水腎症、VUR、異所開口尿管など専門性を必要とする小児の患者さんを診察しています。診察日や受診の仕方など詳細については泌尿器科外来にお問い合わせ願います。

5、小児尿路疾患

オホーツク地域の基幹病院の泌尿器科として今後も安全で質の高い医療を維持できるよう努力したいと考えています。排尿管理、血液、尿所見の異常や画像診断でお困りの際はご遠慮なくご相談ください。

病院ボランティア10周年記念式典開催

去る5月26日に、北見赤十字病院ボランティア10周年記念式典・記念講演が開催され、10名の病院ボランティアと、9名の病院職員が参加しました。

記念式典は、吉田病院長からの祝辞から始まり、10周年へのお祝いの言葉と、これからの活動に対する期待の言葉をかけられたほか、上野看護部長からは、平成23年度に活動時間が100時間、300時間、500時間、1000時間の活動時間の表彰と、記念品の授与がされました。また、ボランティア事務局より活動10年のあゆみをスライドで振り返った際には、懐かしい写真に参加者は顔をゆめらせていました。

その後の会食では、ボランティアと職員が、テーブルを囲みながら、活動の歴史などの会話に花を咲かせ、また、発足時から活動しているボランティアから一人一言ずつ、10年間の活動を振り返ると、今後の活動に対するいきごみが発表されました。最後は、佐藤事務部長からの日頃のボランティア活動へのねぎらいと感謝の言葉により、閉会となりました。

また、今回の式典で、ボランティア手芸作品の売り上げから病院への寄贈品として、キーボード・マイク・スピーカー等の音響設備の贈呈式も行われました。音響設備は、6月25日に開催した北見室内管弦楽団による院内ボランティアコンサートで早速利用させていただきます。

式典後の記念講演は、北海道病院ボランティアネットワーク会長で、市立札幌病院ボランティアコーディネーターである向井和恵先生をお呼びし、テーマを「病院ボランティア活動とは?」活動の実際を中心に「〜」として、一般の方も参加できるかたちとして開催しました。ボランティアの基本理念・目的を再認識できる内容であり、講演を聞いたボランティアからも、「自分の活動に自信がもてた」等の感想も聞かれ、大変好評であり、意義のある講演になったようです。



今後も病院ボランティアが継続して活躍できるよう、ボランティア事務局が中心となり、院内各部署の協力のもと、活動をサポートしていきたいと思っております。(医療福祉課)

先進医療としての大腸腫瘍に対する 内視鏡的粘膜下層剥離術(大腸ESD)

消化器内科部長 **上林 実**

いつも大変お世話になっております。今回は、当院消化器内科で、2011年1月に厚生労働省より先進医療の認定を受けました、大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(大腸ESD)についてご説明させていただきます。

大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は、スネアを使用する内視鏡治療として、スネアを使用したポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術(Endoscopic mucosal resection: EMR)が標準的の手法として一般に普及しています。しかし、これらの手法はスネアサイズの物理的限界から一括切除可能な病変の大きさが2cm程度までであり、それ以上の大きな病変に対しては内視鏡的分割切除や外科的切除が行われてきました。近年、内視鏡的粘膜下層剥離術(Endoscopic submucosal dissection: ESD)が登場し、病変の大きさにかかわらず一括切除が可能となりました。

胃においては従来のEMRに取って代わり表在性腫瘍の標準的治療となっています。2006年4月の診療報酬改定で、胃の早期悪性腫瘍に対するESDが保険収載され、2008年4月には食道に対しても保険収載されています。一方、大腸では、薄い腸管壁などの解剖学的な理由により手技的に極めて高度な技術が要求されること、穿孔などの偶発症が起こりやすく、かつ重篤な転帰をとる場合があり、24時間体制で緊急外科手術を含めた対応が必要であることから、全国どの病院でも安全・確実に施行できる医療技術とは認定されておらず、現時点では保険収載にはいたっておりません。

2009年6月、厚生労働省は大腸ESDを「先進医療」に認定しました。岡山大学病院が最初の認定施設となりました。認定基準として、医師に対し

では、専門医の有無、経験年数、症例数などの基準があり、医療機関に係る基準として、消化器外科医複数名の常勤、緊急手術対応や24時間の検査対応が出来る施設など厳しい基準があります。

当院でも、2006年から、胃についてESDを本格的に導入し、食道に対してもESDを施行しております。大腸に関しては北海道大学病院等の専門医に出張していただき当院で技術指導を受け、症例を蓄積し、先般、厚生労働省に申請を行いました。

2011年1月に先進医療の施設認定を受けることが出来ました。2011年6月28日現在、全国では15施設、北海道内では10施設が認定されています。道内では、8番目に認定を受けました。札幌・小樽にて施設、旭川にて1施設、苫小牧にて1施設が認定されているのみです。道東・道北では当院消化器内科のみが認定施設となっております。

認定後の2月より6月までで21例の大腸腫瘍に対して先進医療としてESDを施行させていただきました。従来であれば人工肛門となってしまう直腸下部の病変に対して、ESDにて根治切除が可能となった症例も経験させていただきました。

大腸ESDは保険適応がないため「大腸ESDにかかる費用」は患者様の自己負担となります。自己負担額は病院によって異なりますが、当院では、私費(実費)で110,000円となります。大腸ESD以外の治療・検査費および入院費用などについては、保険診療が適応されます。大腸癌を外科的手術で摘出する場合は、医療費の総額が100万円を超え、患者様が3割負担の場合には約30万円を

超える経費と、入院期間も腹腔鏡使用で10日〜2週間、開腹手術で2〜3週間程度必要となりますので、経済的にも患者様にとって有用な治療法と考えます。

当院外科では、これまで積極的に腹腔鏡での大腸癌手術を施行させていただいておりますので、大腸癌に関しても患者様のニーズに合わせた治療法を提供できる体制を整えることができま

した。当科では、食道、胃についても積極的に内視鏡治療を展開しております。内視鏡診断・治療は日々進歩しておりますので、今後とも研鑽を積んでさらなる技術の向上に努めてまいります。

地域の各先生方におかれましては、これまで同様、患者様のご紹介等ご支援ご協力のご紹介等ご支援ご協力をお願い申し上げます。



一箭 水島 江平 柳原
久保田 岩永 上林

第3回 北見赤十字病院 緩和ケア研修会終了報告

6月18日(土)19日(日)に標記研修会を開催いたしました。本年も、医師14名、看護師5名、薬剤師1名、MSW1名、計21名の参加を頂きました。

帯広、佐呂間、美幌など遠方からの参加や、今回の参加が2回目という方も3名いらっしゃいました。それに加え、当院講師、スタッフ、遠方からの外部講師を交え活気溢れる研修会を開催することが出来ました。

毎年、セッションの内容等もバージョンアップしております。来年も開催予定ですのでお忙しい中とは思いますが、是非ご参加いただけますようお願いいたします。

(北見赤十字病院がん対策推進室 事務局)



『医療用ウィッグ、乳がん術後下着・ケア用品 相談試着会』のご案内

がん相談支援センター
がん相談支援係長 **堀 健太郎**

現在のがん医療では、手術・抗がん剤療法など、積極的治療を行うことで根治治療や延命効果が得られている一方、抗がん剤の副作用による脱毛や、乳がん術後の容姿の変容に対するストレスに悩まされている患者様がいらっしゃることも事実です。

また、北見地域では、きちんとした乳がん術後の補正下着などを展示・販売している業者もなく、旭川まで行かないと購入できない状況にあり、患者様からも、治療の副作用があるなかで遠方まで行くことが大変であることの訴えや、北見でそういった場があることを望む声が多く寄せられていました。

そこで、平成22年12月より、患者様が安心して治療に専念し、また、治療後に安心して療養生活を送れるよう、『医療用ウィッグ、乳がん術後下着・ケア用品の相談試着会』を定期開催しております。

相談試着会は、当院の患者様とその御家族だけでなく、地域のがん患者様とその御家族にもご利用いただけます。

カタログでの相談ではなく、実物を用意しておりますので、実際にお手にとってお試しいただけます。対象となります患者様や御家族の方がいらっしゃいましたら是非お声かけいただき、ご来場いただければと思います。

開催日：偶数月の第2水曜日 14時から17時まで
場 所：北見赤十字病院 東館4階 研修センター

※相談試着会は、患者様が気軽に医療用ウィッグや補正下着やケア用品を試着・選択出来るような場所を提供することを目的としています。当院が特定の業者を支持・斡旋するものではありません。

(社)日本臨床検査技師会 検査室 精度保証施設認証 取得報告

北見赤十字病院 検査部

課長 廣川 亨

本年4月、(社)日本臨床検査技師会より認証されます「検査室精度保証施設認証」を取得しましたのでご紹介、ご報告させていただきます。

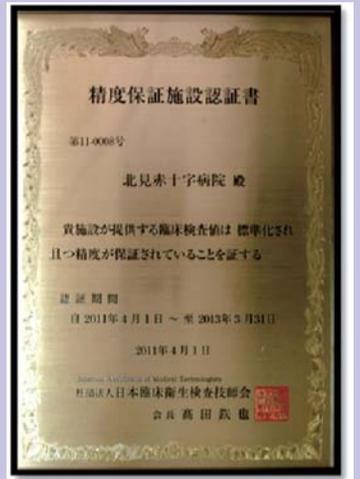
本認証制度は、医療の質が問われる近年、医療機関が日本医療機能評価機構や国際標準化機構（ISO）といった第三者外部評価を受審し自施設の質の検証、保証を得る制度とその目的は同様であり、検査データの精度、品質マネージメントに特化した外部評価制度になります。

本制度の最大の目的は検査データの標準化にあります。患者様中心の医療、効率的な医療を進めるにあたり、医療情報の標準化は現在の医療環境において重要課題であり、チーム医療、病診連携、遠隔診断、地域医療、在宅医療を踏まえ、その情報は自己完結型から広域化・共有化と足を進めており、検査データの標準化、データ精度の保証もまた、その一翼を担う大事な一項目と言えます。

本年度、全国にて本制度審査基準を満たし認証を取得した施設は338施設、道内では3大学病院を含む10施設（管内では、遠軽厚生病院と当院の2施設）となり、各医療機関における検査精度・データ標準化に向けた取組み意識の高まりがうかがえる結果となっています。

認証基準審査（要求）事項は、1）外部精度管理調査成績（過去4年）、2）検査データ標準化の実践、3）人的資源評価の3事項となり、外部精度管理調査結果の許容率が90%以上（過去2年）等の審査細目9項目について、1次審査（支部）、2次審査（本学会）を経て認証合否が判断されます。当院検査部では、検査データの質、人的資源の維持を踏まえ、他分野同様に細分化・専門化が進む臨床検査分野において、全国レベルに劣ることのないよう、検査データ精度維持は基より、各分野において専門性の向上を目的に各専門学会にて認定される認定技師（ないし指導士）を所属技師の半数以上が取得しており、日々、技術・知識の研鑽に努めております。

今回の「検査室精度保証施設認証」取得を機に、更なる、精度向上に努め、地域医療、地域住民皆さまの健康維持、疾病予防に貢献できる検査部を目指し、スタッフ一同、努力していく所存です。今後ともよろしくお願いたします。

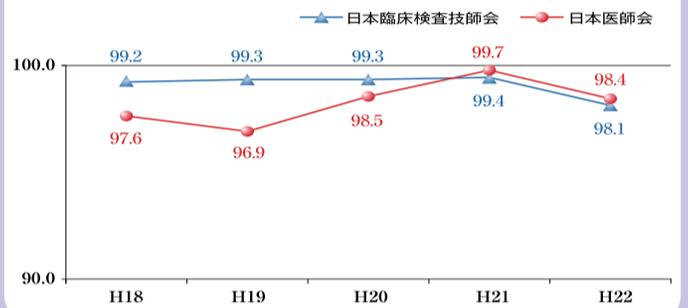


【認定技師（数）】

糖尿病療養指導士3名、NST専門臨床検査技師2名、認定輸血検査技師3名、認定一般検査技師1名、認定心電検査技師1名、認定超音波検査士 消化器4名、循環器2名、体表臓器1名、細胞検査士1名（病理部3名）、認定血液検査技師1名、認定臨床化学者1名
(計21/28名)

※ 認証取得施設は、平成23年4月3日朝日新聞にて掲載されました。
(4月は臨床検査月間にて)

【全国外部精度管理調査成績（過去5年）】



2010年に認定資格を取得し、現在は消化器内科病棟で勤務し、日々の看護実践やがん看護委員、緩和ケアチームメンバーとしての活動を行っております。今後も薬剤や副作用に関する情報を患者様のニーズに合わせて提供し、患者様ががん治療に関連する副作用を自分自身でマネジメントしていくことをサポートしたり、患者様のそばにいて看護師として治療を受ける患者様の気持ちを支えられるような存在になりたいと思っております。院内のがん化学療法看護認定看護師や他職種と連携を図りながら、がん化学療法を行う患者様が納得して安全に、そして少しでも苦痛が少なく治療を受けられるように支援していきたいと思っております。

私が、がん化学療法看護認定看護師を目指したのは、消化器内科病棟でがん化学療法を受ける患者様の看護に携わるなかで、さまざまな副作用に苦しむ患者様に対して知識不足のため何となく自分で行いたいと考える看護と現実のギャップに悩んだことがきっかけでした。消化器がん化学療法は、患者様の頑張りに見合わない結果となることも多く、そのようなつらさを抱える患者様に自分は何をしてあげられるだろうか、看護師としてできることは何かを考えさせられ、壁にぶつかるとも多くなりました。そんな折、北海道赤十字看護大学にがん化学療法看護認定看護師の教育課程が開設されることを知り、その時にはがん化学療法を受ける患者様の看護からは離れてしまいましたが、興味を持ってがん化学療法看護を専門にしたいとの思いを整理することができ、もう一度専門的知識を持って看護を行いたいとがん化学療法看護認定看護師への道を選択しました。



國井みすず

がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法看護認定看護師の横濱菜々です。私は、外科病棟で多くのがん患者様と出会い、その関わりの中で、がん化学療法（抗がん剤治療）を受ける患者様の支えになりたいと思つたとともに、知識不足を痛感しました。がん化学療法では、抗がん剤などの毒性の強い薬剤を場合によっては複数用い、さまざまな副作用が起きます。私たちが看護師は、治療計画の理解と治療を管理するという視点が必要であり、また、副作用を最小限に抑え、最大の効果を



横濱 菜々

法についての理解が不可欠であると認識しました。そこで、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得したいと考え、日本赤十字看護大学看護実践・教育・研修フロンティアセンターががん化学療法看護認定教育過程で半年間学び認定看護師の資格を取得しました。現在は、内科病棟に勤務して、肺がんや造血器腫瘍の患者様と多く関わっており、がん化学療法に関する投与管理やセルフケア支援などを行っております。認定看護師として未熟ですが「安楽」「確実」「安楽」な質の高いがん化学療法看護が提供できるよう努めていきたいと思っております。また、専門的な知識をもとに、がん看護に関わる看護師の役割モデルとなり、がん化学療法看護の質の向上に努めていきたいと考えています。



住田 真弓

がん化学療法看護認定看護師の住田真弓です。私は、頭頸部・耳鼻咽喉科、婦人科、泌尿器科の混合病棟に勤務しています。3科ともに多種にわたる化学療法を行っており、化学療法の副作用で苦しんでいる患者様の姿を多く見えました。ひとりで多くの患者様が苦痛なく化学療法を受けるためには、もっと副作用対策が必要ではないかと考えるようになりました。

認定看護師として未熟ではありますが、がん化学療法を受ける患者様が安全・安楽・確実に治療が継続できるように、抗がん剤の確実な投与、副作用のマネジメント、看護スタッフの知識の向上を目指し頑張りたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

た。そのためには、まず自身スキルアップが必要であると考える、この資格を取得しました。現在も3科の混合病棟に所属し、日々の看護ケアを実践し、化学療法部会、緩和ケア部会、がん看護委員会に所属し活動を行っています。また、院内での勉強会も開催しています。



第三消化器内科副部長
江平 宣起



神経精神科医師
佐久川 信



循環器内科副部長
小野 太祐



循環器内科医師
松谷 健一



小児科医師
越田 慎一

—新しい医師を 紹介しま〜す—

(平成23年4月～)



小児科医師
谷口 宏太



小児科医師
藤本 隆憲



第三外科部長
山口 晃司



第三外科副部長
宮坂 大介



外科医師
長間 将樹



外科医師
佐藤 彰記



第三整形外科副部長
松盛 寛光



形成外科副部長
江平 まり子



泌尿器科医師
橋爪 和純



第一産婦人科副部長
倉橋 克典



産婦人科医師
金 美善



眼科副部長
池 洋一郎



眼科医師
石居 信人



頭頸部・耳鼻咽喉科医師
大原 賢三



麻酔科医師
高桑 一登



麻酔科医師
佐藤 通子



第二健診部長
矢野 昭起



臨床研修医
近藤 桂一



臨床研修医
杉山 拓也



臨床研修医
蓑田 英将



臨床研修医
大原 正嗣

外 来 ご 案 内

診 療 科 目

- 内科・総合診療科
- 消化器内科
- 神経精神科
- 循環器内科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 産婦人科
- 眼科
- 頭頸部・耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 麻酔科
- ペインクリニック・心療内科

休 診

- 土曜日 ●日曜日 ●祝日
- 12月29日～1月3日
- 5月1日（日本赤十字社創立記念日）

事前予約について

紹介状を持参される患者様につきましては、患者様の受診希望日時を事前にFAXにて予約診療のお申し込みいただきますと、診察当日、待ち時間が短縮されます。ぜひご利用願います（但し、急患の場合は各科へ直接連絡願います。）

診 察 カ ー ド

診察券は全科共通で使用いたします。ご来院時に必ずお持ち下さい。

保 険 証

健康保険証はご来院時に確認させていただいております。特に、更新・変更の際は必ずご提出下さい。



地域医療支援病院

北 見 赤 十 字 病 院

【理 念】

人道・博愛に基づき、患者様を尊重した医療を提供し地域の期待と信頼に応えます。

【基本方針】

1. 真に患者本位の医療を提供する、モラルと技術の高い病院を目指します。
2. 二次～三次の救急医療と高度医療の充実した病院を目指します。
3. 職員が成長でき、働く満足度の高い病院を目指します。
4. 健全経営を行い、医療活動を通じて地域社会に還元します。

【患者様の権利】

1. 誰もが年齢・性別・人種・職業などに関係なく公平に医療を受ける権利があります。
2. 誰もが一人の人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利があります。
3. 誰もが分かり易い言葉や方法で、理解・納得できる十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. 誰もが納得したうえで自らの意思で医療行為を選択または拒否する権利があります。
5. 誰もが説明に納得できない場合は他の病院・他の医師に意見を求めること（セカンド・オピニオン）ができる権利があります。
6. 誰もがプライバシー（個人情報保護法）を厳格に保護される権利があります。
7. 誰もが自分の診療記録の情報を得る権利があります。

【患者様へのお願い】

1. 患者様及び御家族の方々は、患者様の健康状態、アレルギー歴、病歴等について出来るだけ正確にお伝え下さい。
2. 医療スタッフの説明を良くお聞きになり、ご理解のうえ指示に従って治療や検査などの医療行為をお受け下さい。
3. 病院内では秩序を保ち、他の患者様のご迷惑にならない様をお願いいたします。
4. 医療費は速やかにお支払い下さいますようお願いいたします。
5. 当院は臨床研修病院として、卒前・卒後研修教育を担っています。医療専門職の育成にご理解・ご協力をお願いいたします。

北見赤十字病院 地域医療連携室

受付時間：月曜日～金曜日 午前8：30～午後5：00迄

TEL0120-018-299 FAX0120-018-599

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携室までお願いいたします。 E-mail:renkei@kitami.jrc.or.jp